

第6回設楽ダム環境影響評価技術検討委員会 議事概要

日 時：平成18年2月10日（金） 13：30～15：00

場 所：桜華会館 本館4F 松の間

出席委員：松尾 直規 委員（委員長代理）、小笠原 昭夫 委員、森 誠一 委員
（順不同。なお、佐藤 正孝 委員長、西條 好迪 委員、田中 正明 委員、
前田 喜四雄 委員は欠席）

議事概要

前回議事について

前回議事概要を報告。

前回意見の補足説明

（水環境）

委 員：設楽ダムでは、中栄養程度のところで収まるということは、ある程度説得力を持って言える。なお、富栄養化に至らない場合でも、一時的、局所的に藻類の増殖が見られる可能性もあるが、完成後のモニタリングで対応し、必要があれば適切な事後対策を考えればよい。

委 員：水質保全対策の内、秋期～冬期の高水温対策の取り組みは、全国的に見ても先進的であり、評価できる。

（生態系・典型性(河川域)）

委 員：例えば、カワガラスのような生態系の上位にある種へ影響がおよぶには、時間がかかると思われるので、今後のモニタリングを行う際に、その時系的変動に留意すること。

その他

委 員：景観や水辺の活動の場などの観点では、貯水池ができることによる「プラス面」もあると思われるが、積極的な評価を行うことはしないのか。しないのであれば、事後調査の段階で評価することが望ましい。

委 員：アセスで扱うことではないが、貯水池ができることを契機として、地域での積極的な活用等を検討できるとよい。